

広報 ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876) 2430番 一部 5円
郵便番号 018-117 毎月 1日15日発行

無料人権相談所開設あんない

左記より無料人権相談所開設しますから、土地・家屋の権利問題、親子、夫婦、扶養、相続、登記、戸籍、供託、交通事故等の問題でお困りの方は気軽に相談においでください。

相談事項は一切秘密に扱います。

と	ころ	6月13日(金)午前10時～午後3時
相	談	担当者
主	催	人権擁護委員・法務局職員 秋田県人権擁護委員協議会 秋田県地方務局



選手宣誓をする原田さん

去る5月24日午後7時農協会館において五城目および野球リーグ(会長荒川要悦)の開会式をおこなった。今年で6年目になるが、最初5チームではじまったこのリーグ戦は、今では15チームを数える程になった。249名の選手が5月から7月末の長丁場にかけて全県制覇をめざしてA、Bリーグ激戦を展開する。この道の若者達は朝4時頃からかけぐつても苦にならない大きい楽しみのひとつである五城目町スポーツのあゆみによると、全町野球のはじめは昭和3

年だとされている。その前のエピソードが非常に痛くである。あるメンバーがテニスのボールで三角ベースボールをやっていたが、破れてしまったボール補償問題から雑誌少年クラブに詳しく野球の解説がのっていることが話題になりそれはひとつ僥倖でやってみようじゃないか、と言うことになった。最初に捕手だけがズック地の手製ミット、あとの選手はすべて素手、ベース、バックネットは勿論言うにおよばず、バットは栗の木やナラノ木をガラスの破片でよくこきすませた。その製品は優良性を競った。その頃今は亡き久保の築地俊龍氏が、立教大学の豪速球投手の経験者でもあったので、W歯科医とともにコーチにあおがれ激しい練習を重ねた。五小グラウンドが使用出来ないときは、井川町

の飛塚まで、バックネットやベースなど用具一切を背負いしかも歩いて練習場の確保に努める程の熱心さであった。

しかし当時五小の校長はこの野球の練習にすこぶる反対で、朝会の際野球をやれば右手が特別長くなるの、当りどころが悪ければ死亡するなどハツパをかけられた。しおれて教室に帰った野球部員に思わぬお告げがあった。それは高等科一年を担任していた小野鉄助先生が「俺の目の黒いうちは野球をやめてはならん」という励まし

の天の声であった。その後楢山グラウンドで少年野球に出場しているが、好成績を残す程成長した。今でもその頃のメンバーは強いきずなで結ばれている。朝野球にも

その共通点が見られる。早朝は誰しも大変である。しかし午前5時30分にはまぎれもなく試合がはじまる。7時には各々朝食に帰り、そして球場に向う。単調なように見えてなかなか忍耐のいることである。しかし勝敗は時の運としても、野球の虫である彼等は、試合を展開することに意義があるのである。そこには249名の仲間がおり共通の楽しみが融和親ぼくにつながる。町中でのあいさつが何の抵抗もなくできるスポーツの最もよいところである。朝野球の心の結びつきが町発展の起爆力につながってほしい。

野球が結ぶ心のきずな

又楽しかった思い出もあります。バスで県の文化財奈良郎、男鹿の水族館、など見学させてもらい、小水産、などに帰ったような気持ちでお弁当を分け合ったりしました。友達にも是非一度見せてあげたいものだと思っております。また九月には町の福祉バスで県主催の敬老式に出席しつばし長いことかと通感した大学を聞き森田氏は、老人を対象にした大町当山号を買い私は若い時期に老人であることをとても幸せだと思つていました。

私は率浦大学の卒業生としてまだ入学してないみなさんに申しあげたい、それは今からでも遅くないふるって入学され、大いに勉強されますようおすすめていたします

去年の春、町内の方のすすめで率浦大学に入学するように言われました。私はまだ若いと思つていました。これが人生の最後の学習の場かと思うと迷ひと涙を流しました。でも入学してみれば、味長さんはじめ、係の人々の親切に、本当に入学してよかったと思ひました。

ある講師のお話しに感銘しました。それは、人間はよい者である、でもチャンスはよい。自分だけよければいいと言う事ではいけない。死の時の言葉のいろいろ、情熱を持ち苦勞して、初めて喜びを味わう事が出来る。学びたいキツカケ、知性の愛、肌身の内、親子の教育、良い家庭、笑いがあふ家、仕事に励む、又夫婦仲よく、など昔も今も変らない事、恩を忘れない人、知識と勇氣と信用等々今更ながら、これらの言葉の重さを知らされました。

長町 加藤ヨシ

△広報サロンV
たのしかった率浦大学生時代

～アメリシロ退治で豊かな緑を～境域ぐるみで防除しましょう

アメリシロ第1次防除班防除予定計画表

防		除		地		区	
6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日			
箱上岩 町口町 稲垣 町稲町 昭徳 辰池 昭徳小御今	川番 原 町町町 地築 田 石 野 西	新紀 久 町町町 長仲 野 谷 地 中	畑久 川 町町町 黒湯 見 寺 村 前 帝町 門 蓬平 水	富八 台 御 下 土又 内 土又 内 黒湯 見 寺 村 前 帝町 門 蓬平 水	田下 庭 村 寺 中	田下 庭 村 寺 中	田下 庭 村 寺 中
大川本町 高久 留	野浦 横 田町 本 崎保 越	岡 本 社	内下 沢				

なお、状況によっては日程の変更もあるのでご了承下さい。第2次防除計画は別に定める。

昭和五十年 花いっぱい運動に参加しよう

近年生活が向上するとともに、物質の節約を呼ばれています。その反面、美しく清らかだった郷土の自然環境が次第にそこなわれつつあることは、まことに憂慮されることです。

澄んだ大気、緑の自然、清い流れ、花のある生活をみんなの力でとりもどしたいと思いませんか。

そこで、全町民が一体となり、町をきれいにする運動の一環として花いっぱい運動を次の内容で推進いたします。

一、花いっぱい運動のすすめ方

一、わが家に花を

②町内、部落、団地に花を

町内、部落、団地の人々が話し合い、知恵を出し合せて、美化運動推進の工夫をし、花だんの場所を見い出して、共同の花をつくりましょう。

子ども会、婦人会、青年会、老人クラブなどが協力し合せて、その地域にふさわしい計画を立て、役割分担をしてみましょう

③学校や職場に花を

学校や職場で次々に美しい花だんがつけられ、緑化がすすんでいますが、美しいものをすなおに美しくと感ずる情操をつくりあげるために、花いっぱい運動を通じて、教育効果のあるものとも望ましく、職場づくりのために花だんづくりをしましょう。

④わが町をより美しく

花いっぱい運動がわが家からわが部落、町内から、わが学校、職場から、波及することによって、川にゴミを捨てない、紙くずやすいごさないなど一連の住民運動となっていくことが期待されます。

二、推進の方法

花いっぱい運動を推進するため次の方法で事業を行なう。

①草花苗の無料配布

部落、町内の子ども会、青年会、婦人会、老人クラブ、部落町内会、学校、職場に対して五種類(サルビア、マリーゴールド、ペコニア、ペチュニア、アゲラタム)の草花苗を一団体グループにおおむね二〇〇本程度を六月中旬に無料配布する。

②草花苗の無料配布

無料配布を希望する団体、グループは六月七日までに五城目町公民館(申込書)により申込のこ。なお、申込団体が多い場合(五十団体以上)は選考の上決定する。草花苗の無料配布を受けた団体グループに対しては、技術的な指導にも応ずる外、コンクールへの参加を条件として

巡回指導を行なう。

また、五城目町公民館で無料配布した草花苗だけでなく、グループ団体で草花苗を選択し用意してくださる。草花苗の購入希望のグループ団体について、五城目町公民館でもあつせんします。

③コンクールの実施

花だんづくりをしている団体グループを対象に「花いっぱい運動コンクール」を行ないます

④その他の

花いっぱい運動に関する所管は五城目町公民館 (TEL 四二一〇)です

今後の栽培管理技術

いねづくり

①早目に補植する

枯死株を中心に、なるべく普通通移植苗で補植する。長く放置した機械移植用苗は使用しないようにする。

②軟弱苗移植田、生育遅延田では除草剤使用を控える。

晴天時には浅水(二〜三cm)低温時には、深水(五〜七cm)にして生育の促進に努める。

(出るだけ日中に水を入れないうようにし、水口青立を防ぐ)有効数が出揃った頃からは、根の健全化を図るために中干し

をはじめる。除草剤とりわけサティンS、スエブPMマメット等の中期使用除草剤は雑草の繁茂状況より稲の生育状況に合せ

て使用する。生育の劣っている圃場では、キカイ除草剤、手取り除草体系も考慮し、稲の生育促進をはかり、除草剤は例年よりも遅目に使用する。

③追肥は慎重に行なう。

劣悪苗を移植し、生育遅延した圃場でも追肥は計画的に行ない、元肥使用量を充分に考察してから行なう。追肥はやり過ぎないようにし、施用する場合は遅くとも六月十日までに切りあげる。N成分で一〇a分〜二aを標準にする。

④いもち病の徹底防除をする。

苗いもちの持ち込みが懸念されるので圃場の見廻りを強化する。五城目町農業総合指導センター

行政相談

こういう方は

いらっしやいませんか

こういうものを扱います

▼テパキやつてもらえない、不親切な扱ひを受けた

▼納得できない、

▼どうしてよいかわからない、

▼こうしてほしい、

▼など、役所に対する苦情や、相談や、意見があるが、どうも関係の役所に申し出にくいとか、どこへ申し出たらよいかわからないという方は、気軽に地元の行政相談委員会か、行政監察局の行政相談所にお申し出ください。

役所の仕事についてはいろいろありますが、行政相談で扱うのは、国の役所の仕事をはじめとして、国鉄や公社、専売公社、公団、公庫、事業団のよう、国から特別の監督を受けている法人の仕事、あるいは、県や町などの仕事のうちで国から任せられたり補助金を受けたりして行なっている仕事についての苦情です。しかし、そうはいりません、いざ具体的な苦情となりますと、国と関係のある仕事かどうか、よくわからない場合があります。そういうときは、とにかくお申し出になることをおすすめします。ただし、捜査に着手している刑事事件、裁判中のものや判決のあったもの、私人間の争いごと、政治問題となつているものなどは取扱いませんので、この点あらかじめご承知おきください。

こうして申し出ましょう

お申し出は、直接、口頭でなさることをおすすめしますが、簡単なものは、手紙でも、電話でも結構です。五城目町の行政相談委員は長谷川豊(五城目町一番町)さんです。気軽に利用してください。



豊かな老後は

付加年金の加入から

国民年金では、「もう少し多くかけ金を納めてもいいから、もっと高い年金をもらいたい」というご要望にこたえて、**付加年金**の制度を設けています。

この付加年金に加入しますと、定額分のかけ金のほかに、付加年金のかけ金を納めることとなりますが、将来その分だけ上積みされた年金をもらうことができます。

現在、秋田県では約5万6千人がこの制度に加入していますが、「豊かな老後」のために、もっと多くの人に参加していただくとうとうと、県と市町村ではこの制度への加入促進を図っています。

加入できる人

かけ金

付加年金の額

国民年金の加入者で、かけ金の免除を受けている人と、5年加入者以外の人であれば、希望によりだれでも加入できます。(農業者年金に加入している人は加入の義務づけられています。)

付加年金のかけ金は、1カ月400円です。定額分のかけ金(1カ月1,100円)とあわせて、1カ月1,500円になります。

「200円×かけ金を納めた月数」が付加年金の額です。つまり、ちょうど2年間でモトがとれ、右の図のような有利な年金が受けられます。



◆かけ金を納め続けると、次のような年金が受けられます。

《老齢年金》

●老後の保障のために



《10年間かけ金を納めたとき》

- 定額分 月 9,288円
- 付加年金も納めると 月11,288円

《25年間かけ金を納めたとき》

- 定額分 月23,220円
- 付加年金も納めると 月28,220円

《40年間かけ金を納めたとき》

- 定額分 月37,152円
- 付加年金も納めると 月45,152円

《障害年金》

●ケガや重い病気になったとき
最低保障
月23,220円
重度のとき
月29,025円

《母子年金》

●ご主人などに先立たれたとき
お子さま1人とき 月23,220円
2目目、3人目以上のお子さまには月 800円・400円を加算

《遺児年金》

●両親が死亡したとき
お子さま1人とき 月23,220円
2人目・3人目以上のお子さまには月 800円・400円を加算

《死亡一時金》

●途中で亡くなったとき
納めた年数により
17,000円～52,000円



◆年金額は、物価が年に5%以上変動したとき自動的に改定されます。昭和50年度は9月分から約22%引き上げられる予定です。

自動車税の納期が六月になりました

昨年年度で五月とされていた自動車税の納期が六月になりました。六月三十日が期限です。今から納税の準備をしておいてください。

自動車台数も年々ふえ続け、事務量もまた増大の一途をたどり、県では電算を利用して対処してきましたが、この四月一日には、遂

に二十一万五千台の大口に達し、課税の基準日である四月一日現在の実態で納税通知書を作成し、五月三十一日までに納めたい。現在ためにこの通知書がお手もとにお届けすることが困難となりました。加えて通知書が届いてから納期までの期間が短いとの声もあり、これらの状況を考慮して、本年度は納期を一月遅らして六月一日から六月三十日までとしました。納税通知書は、五月下旬か遅くても六月の初めにはお手もとにお届けします。

自動車税は四月一日現在の所有者等が納めなければなりません。四月一日以後に所有権の移転があった場合は、当事者間で話合つて税の負担をしてもらうこととされていますが、納税の責任は当日の所有者(所有権保持付制賦販売のものについては、買主である使用者が負うこととされています。また、四月一日以後に廃車し又

は他県へ登録換えをした場合は、課税後月割で減額されます。納税証明書は六月二十九日まで有効とす。車体検査に必要な昭和四十九年度自動車税の納税証明書は、昭和五十年五月三十日まで有効と記入されていますが、本年度は納期の変更により、六月二十九日(六月三十日になれば昭和五十年度分の証明が必要ですが。)まで有効となりますので、五月三十一日以後六

月二十九日まで車検を受ける方で昭和五十年五月三十日まで有効の納税証明書をお持ちの方は、そのまま車検を申請する際に添付してください。

のあらまはは次のとおりです。自動車重量税は、道路運送車両法の規定により自動車検査を受ける自動車(軽自動車を含む)及び使用の届出により車両番号の指定を受ける軽自動車に対しその重量に応じて異なります。ただし、大型特殊自動車や原動機付自動車、小型特殊自動車及び届出軽自動車のうち既に車両番号の指定を受けたことのある中古車は、一定の手続きにより課税されません。

自動車重量税のあらまし



おしらせ

子宮がんを早くみつければ

症状がなくても年に一回二回検診を

「健康だと思っている自分をもう一度集団検診で確かめて見ましょう！」

このたび婦人科検診の希望者がまるとまりましたので次の日程により実施いたしますから受診くださいますようお知らせします。

日時及び場所

- 六月二十四日 五城目地区 湖東総合病院婦人科外来
六月二十五日 五城目地区 湖東総合病院婦人科外来
六月二十六日 馬川地区 馬川分館
六月二十七日 馬場目地区 馬場目児童館前
七月二日 杉沢地区 杉沢木場前
七月三日 富津内地区 富津内地区富津内落合公民館
七月四日 富津内地区 富津内児童館前
七月九日 大川地区 大川出張所前

※当日都合の悪い方は他の場所に行つて受診してよいです。

※受診料金四〇〇円(義務婦人部若妻部員は二〇〇円です。)

町税前納者

四、五月中に固定資産税(都市計画税)第一期から第四期まで全額納付された方は次のとおりです。ご協力深く感謝いたします。

- 二田農機店 伊藤ツツ 二田紀義
北嶋光二郎 荒川仁市 伊藤孝治
渡辺民太郎 島井三郎 山口倉造
伊藤三之助 高橋雄治 阿部チャ
武田富太郎 高橋雄治 伊藤清志
本間 周郎 稲名仁市 伊藤静雄
川原 周郎 柴田憲一 千葉昌朗
一関 吉朗 米田健一 谷地富藏
加賀吉嘉太郎 佐藤忠雄
今村久太郎 一関勇 北嶋三郎
齊藤与市郎 伊藤三太郎 近藤喜市
加藤久太郎 工藤雷防 笹川久一
工藤 勝久 田上道弘 陽広寺
(株)鈴木喜三郎商店 竹田孝治
久保市正之助 小玉 進 小林 登
小玉正太郎 伊藤正紀 高山宮松
渡辺真太郎 小林浩久 小玉鉄雄
久保市正之助 小玉 進 小林 登
久保市正之助 小玉 進 小林 登
松橋 利男 藤井錦一 伊藤金弥
菅原寿一郎 阿部光弘 宮川礼喜
清水清一郎 齊藤隆吉 金沢礼喜
小森伝三郎 伊藤長一郎 伊藤吉藏
大山勇二郎 小玉隆三郎 加藤隆一
小玉孫右衛門 伊藤巳之吉 斉藤勇

- 阿部忠之助 小熊健太郎外十一名
笹川久二雄 村山タイ外三名
伊藤キヨ宅前 谷地公民館前
七月十一日 内川地区
湯ノ又公民館
※受付時間 午後一時〜二時
開始時間 午後二時〜三時
※当日都合の悪い方は他の場所に行つて受診してよいです。
※受診料金四〇〇円(義務婦人部若妻部員は二〇〇円です。)

生涯教育こんにやく問答

五城目町は昭和四十九年度より町の生涯教育パイロット町に選ばれ、今年で二年目を迎えたわけですが、まだ十分理解されているとはいえないようですので、問答の形式で解説を試みました。こんにやく問答と登場人物は、娘、夫、妻、青年、高令者と色々です。

「娘」おとうさん町では生涯教育パイロット町に指定されてから、二年目だそうですが、生涯教育というのはどんなことなんでしょうか。

「父」町では色々な事業をしているようだが、一生涯何か自分のために学ぶという心がけをもって豊かな生涯をおくろうということではないかな。

「娘」学ぶという心がけでは、豊かな生活が望めないのではないの「父」それはそうだねやはり態度で示さねばね。

「娘」どんなことを学んだらいいの

「父」学び方に二つあると思うね一つは個人で学ぶ方法、もう一つは皆なでどこか集まって学ぶ、この二つの方法があると思うよ。

「娘」それじゃ、個人で学ぶ方法を教えてください。

「父」大きく分けて三つ、一つは本で学ぶ方法、もう一つは、放送で学ぶ方法、あとは、だれかに相談という方法だろうな。

「娘」本で学ぶ方法が、本であれば何でもよいという訳にはいかな、いややはり、自分を高めるためには、何かをもとめるための読書

であって、学ぶための読書にもなるわけだね。本は自分で買ひよめるものや、公民館でも町民のための図書を開放(二千冊)しているの借りたものや色々あっていいわけだが、問題はその読み方にあるわけだ。

「娘」本一つ読むにしても、生涯教育的読み方となるとどんなふうな読めばいいの、お前はどんな読み方をしているのかね

「父」小説をじゃんじゃん読んでるわ、おもしろいものを選んでね

「父」それでいいのだよ、小説を読むにしても、おもしろいから読むのことによってお前自身豊かになるそれも一つの学習といえるわけなんだよ。

「娘」テレビをみることも個人の学習の一つなんですか。

「父」勿論そうさ、又例の通り、ぼんやり何の目的もなく見るのであれば、学習は成立しないよ。やはり前にもいったように、問題意識をもってみるのでなくてはね

「娘」なるほどね、テレビ一つみるにしても、ぼんやり何となくみるのと、意図的に目的をもって見るのとは大きな違いがあるね。

「父」学校でテレビをみる場合ははっきりした目的をもって、課題にそって視せるからね。学校放送やおかあさんの勉強室などは放送局の方でも、学ぶという意図をもってつくるそうだからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

善意銀行預託のお知らせ

このほど町の善意銀行へ次のような預託がありましたのでお知らせします。

善意銀行五城目支店 五城目町社会福祉協議会

「亡母テイ殿(八十八才)」の香典返しし。

町福祉事業へのことです。どうもありがとうございました。

善意銀行五城目支店 五城目町社会福祉協議会

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあさんを仲間に入れましょう

「父」そうか、おかあさんが一番テレビの利用者だからね

「父」お前なかなか放送のことを勉強しているね

「娘」ええテレビの放送モニターをしたことがあるからね

「父」それでは、テレビについて生涯教育にどう取り入れるべきか二人で話してみよう

「娘」おかあ